

教科	科目	単位数	学年・クラス (類型)
地理歴史	世界史A	2	1年生 (共通)

1 使用教材

使用教科書	高等学校 改訂版 世界史A (第一学習社)
副教材等	

2 学習の目標

1 我が国の歴史と関連付けながら、近現代史を中心とする世界の歴史の大きな流れと特質についての理解を深める。
2 世界の歴史を踏まえ、現代の人類が直面する課題を政治・経済・文化など様々な観点から考察し、国際社会を主体的に生きようとする姿勢を持つ。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	
思考・判断・表現		近現代史を中心とする世界の歴史の知識を基に、人類の課題を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ適切に表現している。	
資料活用の技能		近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して客観的かつ公正な目で効果的に活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切にまとめたりしている。	
知識・理解		前近代史について、諸地域世界の歴史的特質と交流の様相を把握し基本的知識を身に付けているとともに、近現代史を中心とする世界の歴史について、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解を、課題テスト・小テストなどで関心・意欲・態度、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
3 学期	学年末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%		
学年	1 学期成績 35%・2 学期成績 35%・3 学期成績 30%		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 予習は、教科書を読み、疑問に思ったことを授業で解消できるようにして臨んでください。 授業中は、板書事項の書き取りをしたり、説明に耳を傾けたり、常に集中してください。 復習は、教科書やノートの確認だけでなく、単元のまとめを行ってください。 各項目の暗記だけでなく、「なぜ、そうなったのか？」の背景を考察する姿勢が重要です。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲	
1 学期	4	第1編 世界史へのいざない	地理とのつながりで歴史に対する関心を高め、自然環境と人類の活動が相互に作用しあっていることについて考察する。 風土・民族・宗教などに着目し、ユーラシアを中心に形成された諸地域社会の特質を理解する。	中間	
	5	第2編 世界の一体化と日本 第1章 ユーラシアの諸文明 東アジア 南アジア 東南アジア 西アジア ヨーロッパ ○中間考查			
	6	第2章 結びつく世界と近世の日本 14～15世紀の東アジア	14世紀から18世紀にかけての陸と海の動向について関心を高め、アジア諸地域の特質とそこでの日本の位置づけを理解する。 明・清帝国と朝鮮・日本との関係、ムガル帝国・サファヴィー朝・オスマン帝国の動向に関する資料を活用し、基本的知識を身に付ける。	期末	
	7	14～15世紀の東アジアの海 16～17世紀の東アジア ○期末考查 清と東アジア 内陸アジア・南アジア世界の再編			
	8	オスマン帝国とサファヴィー朝			
	2 学期	9	ヨーロッパの「大航海時代」 アメリカ大陸の変容 ルネサンスと宗教改革	「大航海時代」のヨーロッパとアメリカ大陸の変容について理解し、ルネサンスと宗教改革の歴史的背景について考察し、その結果を適切に表現する。 石見銀山の事例から、地図や年表に表す活動を通して、日本の歴史が世界の歴史とつながっていることを理解する。 主権国家体制の成立と大西洋貿易の展開によるヨーロッパ社会の変容について理解する。	中間
		10	第1編 世界史へのいざない 第2章 日本列島の中の世界の歴史 銀がつなぐ世界史ー石見銀山 ヨーロッパ主権国家体制の成立 17～18世紀のヨーロッパ諸国 ○中間考查		
11		第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 産業革命 アメリカ独立革命 フランス革命 イギリスに挑戦したナポレオン ウィーン体制 イギリスの繁栄 イタリアとドイツの統一 アメリカ合衆国の膨張	産業革命・アメリカ独立革命・フランス革命・ラテンアメリカ諸国の独立が果たした歴史的意義について考察する。 ウィーン体制下での自由主義・国民主義の運動、ドイツ・イタリアでの国民国家形成の歴史的意義について理解する。 ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容を考察する。	期末	
12		○期末考查 第4章 アジア諸国の変貌と近代日本 オスマン帝国の衰退と西アジア 南アジアの植民地化とインド帝国			
3 学期		1	第3編 地球社会と日本 第1章 帝国主義の時代 明治維新と東アジア 列強の世界政策 第3章 世界戦争と平和 アジア諸国の変革 第一次世界大戦 ヴェルサイユ・ワシントン体制	日本の明治維新とその後の近代化の動きがアジア諸国に与えた影響について考察する。 帝国主義列強の世界政策によって世界がどのように変化したか、世界恐慌からファシズムの台頭、第二次世界大戦、冷戦の終結に至るまでの過程を関連付けながら、意欲的に追究する。	学年末
	2	ファシズムの台頭 第二次世界大戦の勃発 戦後世界の出発 緊張緩和と多極化 冷戦の終結 ○学年末考查			
	3	第5章 地球社会の歩み 21世紀の世界と日本	現代社会の問題点を把握し、その解決のために日本が果たすべき役割について考察する。		

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
地理歴史	地理 B	3	2 1 R II型理系

1 使用教材

使用教科書	新詳地理 B (帝国書院)
副教材等	新詳高等地図 (帝国書院)、新地理要点ノート (啓隆社)

2 学習の目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
--

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求しようとしている。	
思考・判断・表現		現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ適切に表現している。	
技能		地図や統計、画像など諸資料から有用な情報を選択・活用したり、まとめるなどの地理的スキルを身に付けている。	
知識・理解		現代世界の地理的事象についての基本的な事柄を総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解を、課題テスト・小テストなどで関心・意欲・態度、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	3 学期	学年末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%	
学年	1 学期成績 35%・2 学期成績 35%・3 学期成績 30%		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 予習は、教科書を読み、疑問に思ったことを授業で解消できるようにして臨んでください。 授業中は、板書事項のまとめをしたり、説明に耳を傾けたり、常に集中してください。 復習は、教科書やノートの確認だけでなく、単元のまとめを行ってください。 各項目の暗記だけでなく、「なぜ、そうなったのか？」の背景を考察する姿勢が重要です。
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	I 部 1 章 地理情報と地図	現代世界の地図について、さまざまな時代や種類の地図の読図などの活動を通して、地図の有用性に気づき、現代世界の地理的事象を捉える地理的技能を身につける。	中間
	5	1 現代世界の地図 2 地図の種類とその利用 3 地理情報の地図化 2 章 地図の活用と地域調査 ○中間考査		
	6	II 部 1 章 自然環境 1 世界の地形		
7	2 世界の気候 ○期末考査	期末		
2 学期	8	3 日本の自然の特徴と人々の生活	日本の自然の特徴と人々の生活について理解し、防災のあり方を考察する。 産業の発達と変化について、自然環境との関わりやグローバル化の視点から考察する。 現代世界の農林水産業の現状と課題、及び世界のなかでの日本の農林水産業の課題を考察する。 食料問題について、世界の食料需給の地域的な偏りを大観し、発展途上国、先進国、日本についてのし事例を考察する。	中間
	9	4 環境問題		
	10	2 章 資源と産業 1 産業の発達と変化 2 世界の農林水産業 ○中間考査 3 食料問題		
2 学期	11	4 世界のエネルギー・鉱産資源 5 資源・エネルギー問題 ○期末考査	現代世界の資源・エネルギー問題を大観し、世界の資源をめぐる問題、エネルギー生産や消費の抱える課題、日本の資源・エネルギー問題を考察する。 世界の工業について、工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察する。	期末
	12	6 世界の工業		
3 学期	1	7 第3次産業	現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特徴を考察する。 交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。 世界貿易と日本の貿易の現状と課題を考察する。 世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。 村落・都市の立地や機能、日本の都市の特徴を考察する。 世界の都市・居住問題の要因と発生のしくみを考察し、問題解決には何が必要か考察する。	学年末
		8 世界を結ぶ交通・通信		
	2	9 現代世界の貿易と経済圏		
	3	3 章 人口、村落・都市 1 世界の人口 2 人口問題 ○学年末考査 3 村落と都市 4 都市・居住問題		

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
地理歴史	地理 B	2	3 1 R II型理系

1 使用教材

使用教科書	新詳地理 B (帝国書院)
副教材等	新詳高等地図 (帝国書院)、新地理要点ノート (啓隆社)

2 学習の目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
--

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求しようとしている。	
思考・判断・表現		現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ適切に表現している。	
技能		地図や統計、画像など諸資料から有用な情報を選択・活用したり、まとめるなどの地理的スキルを身に付けている。	
知識・理解		現代世界の地理的事象についての基本的な事柄を総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解を、課題テスト・小テストなどで関心・意欲・態度、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	3 学期	学年末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%	
学年	1 学期成績 35%・2 学期成績 35%・3 学期成績 30%		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 予習は、教科書を読み、疑問に思ったことを授業で解消できるようにして臨んでください。 授業中は、板書事項のまとめをしたり、説明に耳を傾けたり、常に集中してください。 復習は、教科書やノートの確認だけでなく、単元のまとめを行ってください。 各項目の暗記だけでなく、「なぜ、そうなったのか？」の背景を考察する姿勢が重要です。
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	Ⅲ部 1章 現代世界の地域区分	地域区分の目的と意義を理解する。	中 間
	5	1 地域区分とは何か	国・地域ごとの地域区分と考察の方法について理解する。	
		2章 現代世界の諸地域 1 地域の考察方法 2 東アジア	東アジアについて、形式的な地域区分に基づき、多様な事象を項目ごとに整理して、静態的に理解する。	
		○中間考査		
	6	3 東南アジア	東南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、多様な事象を項目ごとに整理して、静態的に考察する。	期 末
	7	4 南アジア ○期末考査	南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、多様な事象を項目ごとに整理して、静態的に考察する。	
		5 西アジアと中央アジア	西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に着目した地域区分に基づき、類似的な二つの地域を比較して考察する。	
2 学期	8	6 北アフリカとサハラ以南の アフリカ	北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と仲南アフリカ文化という文化に着目した地域区分にもとづき、対照的な性格の二つの地域を比較して考察する。	中 間
	9	7 ヨーロッパ ○中間考査	ヨーロッパについて、形式的な地域区分に基づき、多様な事象を項目ごとに整理して、静態的に考察する。	
		8 ロシア	ロシアについて、亜寒帯が広がる自然環境に着目した地域区分に基づき、多様な事象を項目ごとに整理して、静態的に考察する。	
	10	9 アングロアメリカ	アングロアメリカについて、文化に着目した地域区分に基づき、多様な事象を項目ごとに整理して、静態的に考察する。	期 末
	11	10 ラテンアメリカ ○期末考査	ラテンアメリカについて、文化に着目した地域区分に基づき、多様な事象を項目ごとに整理して、静態的に考察する。	
		12	11 オセアニア	
3 学期	1	3章 現代世界と日本 1 日本が抱える地理的な諸課題 2 日本の抱える課題の追求	現代世界において、日本が抱える地理的な諸課題について、多面的・多角的に考察し、探求する活動を通して、その解決の方向性や将来像について考察する。	学 年 末
	2			
	3			

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
地理歴史	日本史B	3	2 1 R I型

1 使用教材

使用教科書	最新日本史 (明成社)
副教材等	

2 学習の目標

1	日本の歴史を政治・経済・文化から多面的に把握し、歴史に関する基本的な理解を深める。
2	今日の日本は、周辺諸国との関わりの上に成り立っていることを理解する。
3	歴史に興味・関心を持ち、地域の歴史を探究し、史跡・遺跡を大切にす姿勢を持つ。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	
思考・判断・表現		我が国の歴史の展開から課題を見だし、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めながら世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ適切に表現している。	
資料活用の技能		我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切にまとめたりしている。	
知識・理解		我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解を、課題テスト・小テストなどで関心・意欲・態度、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	3 学期	学年末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%	
学年	1 学期成績 35%・2 学期成績 35%・3 学期成績 30%		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 予習は、教科書を読み、疑問に思ったことを授業で解消できるようにして臨んでください。 授業中は、板書事項のまとめをしたり、説明に耳を傾けたり、常に集中してください。 復習は、教科書やノートの確認だけでなく、単元のまとめを行ってください。 各項目の暗記だけでなく、「なぜ、そうなったのか？」の背景を考察する姿勢が重要です。
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	オリエンテーション 歴史の考察 第一章 古代国家の形成 日本文化のはじまり 農耕社会の成立	諸資料に基づいて、歴史の叙述が成り立っていることに気付く。 自然環境の変化や大陸から伝来した文化の影響による生活の変化に着目して、人々の生活や社会の様子について考察する。	中間
	5	統一国家の成立 古代文化の形成		
	6	○中間考査 第二章 律令国家の形成 飛鳥の政治と文化 大化の改心 律令体制の成立	隋・唐など東アジア世界との交流に着目して、我が国における律令体制確立の過程、古代国家の展開や各時代の文化などの特色について考察する。	期末
7	平城京の時代 ○期末考査 天平文化			
2 学期	8	第三章 貴族政治と国風文化 律令政治の再建と弘仁・貞観文化 国風文化の隆盛	東アジア世界との関係の変化、貴族社会の繁栄と武士の台頭などに着目して、古代国家の推移と国風文化の展開、中世社会の萌芽について考察する。	中間
	9			
	10	第四章 武家政治の成立と文化 の新気運 院政と源平の盛衰 ○中間考査	公家と武家の関係や中国（宋・元）などとの関わりに着目して、武家政権の形成過程と鎌倉時代の文化に見られる新しい気運について考察する。	期末
	11	鎌倉時代の文化 幕府の滅亡と南北朝時代 第五章 武家社会の展開と文化 の発達 室町幕府の内政と外交 庶民の台頭と産業の発達		
12	○期末考査 幕府の衰退と下克上 室町時代の文化			
3 学期	1	群雄の割拠と社会の様相 第六章 天下統一への動き ヨーロッパ人の来航 織豊政権と桃山文化	織豊政権・幕藩体制の特質について、ヨーロッパ世界との接触とその影響、鎖国などの対外関係、支配体制と身分制度、文化などの特色に着目して理解する。 幕藩体制の安定に基く平和と秩序の確立と、その下での経済機構や交通・技術の発展、都市の繁栄に着目して、農業や商工業の発展及び町人文化の形成について理解する。	学年末
	2	第七章 封建社会の確立 幕藩体制の成立 江戸時代の社会のしくみ		
	3	○学年末考査 鎖国		

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
地理歴史	日本史 B	3	2 1 R II型文系

1 使用教材

使用教科書	改訂版 詳説日本史 B (山川出版社)
副教材等	図説日本史通覧 (帝国書院)

2 学習の目標

1	日本の歴史を政治・経済・文化から多面的に把握し、歴史に関する基本的な理解を深める。
2	今日の日本は、周辺諸国との関わりの上に成り立っていることを理解する。
3	歴史に興味・関心を持ち、地域の歴史を探求し、史跡・遺跡を大切に作る姿勢を持つ。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	
思考・判断・表現		我が国の歴史の展開から課題を見だし、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めながら世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ適切に表現している。	
資料活用の技能		我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切にまとめたりしている。	
知識・理解		我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解を、課題テスト・小テストなどで関心・意欲・態度、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	3 学期	学年末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%	
学年	1 学期成績 35%・2 学期成績 35%・3 学期成績 30%		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 予習は、教科書を読み、疑問に思ったことを授業で解消できるようにして臨んでください。 授業中は、板書事項のまとめをしたり、説明に耳を傾けたり、常に集中してください。 復習は、教科書やノートの確認だけでなく、単元のまとめを行ってください。 各項目の暗記だけでなく、「なぜ、そうなったのか？」の背景を考察する姿勢が重要です。
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	歴史へのアプローチ 歴史と資料 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権 ○中間考査	諸資料に基づいて、歴史の叙述が成り立っていることに気付く。 自然環境の変化や大陸から伝来した文化の影響による生活の変化に着目して、人々の生活や社会の様子について考察する。	中間
	5	○中間考査		
	6	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 3 平城京の時代 ○期末考査 4 天平文化	隋・唐など東アジア世界との交流に着目して、我が国における律令体制確立の過程、古代国家の展開や各時代の文化などの特色について考察する。	期末
	7	○期末考査 4 天平文化		
2 学期	8	5 平安王朝の形成	東アジア世界との関係の変化、貴族社会の繁栄と武士の台頭などに着目して、古代国家の推移と国風文化の展開、中世社会の萌芽について考察する。	中間
	9	第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化		
	10	3 地方政治の展開と武士 ○中間考査		
	11	第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会 ○期末考査 4 蒙古襲来と幕府の衰退	公家と武家の関係や中国（宋・元）などとの関わりに着目して、武家政権の形成過程と鎌倉時代の文化に見られる新しい気運について考察する。	期末
12	○期末考査 4 蒙古襲来と幕府の衰退			
3 学期	1	5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 ○学年末考査 4 戦国大名の登場	日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との交流、庶民の台頭などに着目して、産業経済の発展や下克上など中世社会の多様な展開、文化の動向などについて考察する。	学年末
	2	2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 ○学年末考査 4 戦国大名の登場		
	3	歴史へのアプローチ 歴史の解釈	諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察し、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈する。	

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
地理歴史	日本史 B	5	3 1 R II型文系

1 使用教材

使用教科書	改訂版 詳説日本史 B (山川出版社)
副教材等	図説 日本史通覧 (帝国書院)

2 学習の目標

1	日本の歴史を政治・経済・文化から多面的に把握し、歴史に関する基本的な理解を深める。
2	今日の日本は、周辺諸国との関わりの上に成り立っていることを理解する。
3	歴史に興味・関心を持ち、地域の歴史を探究し、史跡・遺跡を大切にする姿勢を持つ。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	
思考・判断		我が国の歴史の展開から課題を見だし、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めながら世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	
資料活用の技能・表現		我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	
知識・理解		我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、思考・判断、資料活用の技能・表現、知識・理解を、課題テスト・小テストなどで関心・意欲・態度、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (中間考査・期末考査 70%・小テスト・ノート点等 20%・平常点 10%)
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (中間考査・期末考査 70%・小テスト・ノート点等 20%・平常点 10%)
3 学期	学年末考査 70%・小テスト・ノート点等 20%・平常点 10%		
学年	1 学期成績 35%・2 学期成績 35%・3 学期成績 30%		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 予習は、教科書を読み、疑問に思ったことを授業で解消できるようにして臨んでください。 授業中は、板書事項の書き取りをしたり、説明に耳を傾けたり、常に集中してください。 復習は、教科書やノートの確認だけでなく、単元のまとめを行ってください。 各項目の暗記だけでなく、「なぜ、そうなったのか？」の背景を考察する姿勢が重要です。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲			
1 学期	4	第5章 武家社会の成長 4 戦国大名の登場 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化	戦国大名による支配体制の確立・分国統治を、政治、経済、文化等の面から理解する。 織豊政権・幕藩体制の特質について、ヨーロッパ世界との接触とその影響、鎖国などの対外関係、支配体制と身分制度、文化などの特色に着目して理解する。	中間			
	5	3 幕藩体制の成立 ○中間考查					
	6	第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定 2 経済の発展 3 元禄文化			幕藩体制の安定に基く平和と秩序の確立と、その下での経済機構や交通・技術の発展、都市の繁栄に着目して、農業や商工業の発展及び町人文化の形成について理解する。 幕藩体制の動揺について、幕藩体制の構造的変化と国際情勢の変化に着目して理解する。	期末	
		7					第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 ○期末考查
		7					2 幕府の衰退 3 化政文化
	2 学期	8	第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達 ○中間考查	開国・幕府の滅亡と、明治時代の近代日本の歩みについて、欧米諸国のアジア進出とそれに伴うアジアの国際環境の変化などを考察しながら理解する。	中間		
		9					
10							
10							
10							
10							
11		第10章 近代日本と東アジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 恐慌の時代 4 軍部の台頭 5 第二次世界大戦	国際社会の動向や国際社会における日本の立場に着目し、第一次・第二次世界大戦期の対外政策の推移や国内政治と経済の動揺、大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について理解する。 第二次世界大戦後の国際関係の推移に着目して占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立など、我が国の再出発及びその後の政治の推移と新しい外交関係の確立について理解する。	期末			
12		○期末考查					
11		第11章 戦後日本の出発 1 占領と民主化 2 冷戦の開始と日本の復興					
11							
11							
11							
3 学期	1	第12章 55年体制と経済成長 1 55年体制 2 高度経済成長期の経済と社会 3 経済大国 4 現代の世界と日本 ○学年末考查	生活意識や価値観の変化に着目し、世界経済の変化や、国際政治の動向を踏まえながら、我が国の政治・経済・社会・文化の動向を理解する。	学年末			
	2						
	3						